

【取組一覧】

1. 関西各地の「茶の文化」取組参加団体(49団体)をネットワーク化

取組参加団体が実施する各取組を「はなやか関西」のプロモーションで紹介するとともに、有志の団体も参画する実行委員会を組成し、意見交換

2. 「茶の文化」を体験する取組

①「茶の文化」総合イベント はなやか関西茶会記－

秀吉と利休の大阪城を舞台として－

第1部 黄金の茶室プレビュー

第2部 「茶の文化」フォーラム

第3部 はなやか関西茶会記

○はなやか関西～文化首都年～2011「茶の文化」関西の学生アイデア募集！

②非公開茶室の見学

○大徳寺コース・東山コース・山崎コース



③「茶の文化」タイアッププログラム

- 関西経済連合会/都市創造・観光委員会 講演会
- 関西経済連合会/都市創造・観光委員会 歴史街道視察会
- 関西領事館フォーラム 第11回関西ツアー
- 国土交通省近畿運輸局/お茶の文化の情報発信～ビジット・ジャパン地方連携事業～2事業の中で抹茶体験等を企画実施

④「茶の文化」スタンプラリー

3. 「茶の文化」のPR

- ①「はなやか関西～文化首都年～2011」公式ガイドブック
- ②関西はなやか美術館-関西で「本物」の茶道具を所蔵する美術館-
- ③「はなやか関西～文化首都年～」ホームページ
- ④DVD「はなやか関西茶会記－秀吉と利休の大阪城を舞台として－」(制作:2011「茶の文化」実行委員会)
- ⑤DVD「茶の文化」(制作:(財)大阪21世紀協会)



【効果と課題(案)】

1. 単年度の効果と課題

■ モデル実施として、各プログラムともに一定の成果を残せた

2. 継続的な効果と課題

①来訪者への効果と課題

■ 来訪者に「関西の文化」を知ってもらいきっかけとなった

②参加地域の効果と課題

●ひとづくり

■地域のネットワーク形成に大きな成果。継承・継続が大きな課題

●まちづくり

■地域の認知度向上に成果。空間づくり等の側面での効果は限定的

●ものづくり

■参加者の一部でもものづくりに関する取組があったが、関西全体でみると限定的

3. 成果と課題の総括

■ 関西が文化首都圏を確立することは「意義がある」との意見が大半

■ はなやか関西の関西全体への取組の広がり面で課題

■ 継続性のある体制構築～人材と資金



【自立的政策モデルの提示(案)】

1. 次年度以降の展開方策について

①基本的な考え方

■ できることを着実に積み上げ実績を残す

2. 平成24年度の「はなやか関西」の実施に向けて

①テーマについて

■ 実行委員会の実施主体の公募制の採用

②体制について

■ アドバイザー制度の継続

■ 各地域の取組団体への積極的アプローチ

■ 準備会構成機関の参加促進

■ 学生の参加促進

■ 民間の参加促進

③事業について

■ 取組参加団体が主体的に事業提案できる環境づくり

■ 有料プログラムの企画・実行

■ 「本物の文化」そのものが抱えている課題へのアプローチ～文化のすそ野を広げる取組の必要性

④プロモーション

■ 「facebook」などの情報発信媒体の活用の検討

2. 「茶の文化」(2011年度)の継続に向けて

■ 持続可能な形で取組参加団体のネットワークを継承する

『はなやか関西～文化首都年～2011「茶の文化」』

有効性検証と自立モデルの提案（詳細版）

I. 「はなやか関西～文化首都年～」の有効性検証.....	1
1. 実施した業務.....	1
(1) 関西各地の「茶の文化」取組参加団体(49 団体)をネットワーク化.....	1
(2) 「茶の文化」を体験する取組.....	1
①「茶の文化」総合イベント.....	1
②非公開茶室の見学.....	6
③「茶の文化」観光 PR キャンペーン.....	7
④「茶の文化」タイアッププログラム.....	7
⑤「茶の文化」スタンプラリー.....	9
(3) 「茶の文化」の PR.....	10
①「はなやか関西～文化首都年～2011」公式ガイドブック.....	10
②関西はなやか美術館・関西で「本物」の茶道具を所蔵する美術館.....	10
③「はなやか関西～文化首都年～」ホームページ.....	11
④DVD「はなやか関西茶会記―秀吉と利休の大阪城を舞台として―」(制作:2011「茶の文化」実行委員会.....	11
⑤DVD「茶の文化」(制作:(財)大阪 21 世紀協会).....	11
2. 効果と課題.....	12
(1) 単年度の効果と課題.....	12
(2) 継続的な効果と課題.....	13
①来訪者への効果と課題.....	13
②参加地域の効果と課題.....	13
③準備会メンバー等への効果と課題.....	14
(3) 成果と課題の総括.....	14
II. 自立的政策モデルの提示.....	16
1. 次年度以降の展開方策について.....	16
(1) 基本的な考え方.....	16
①テーマについて.....	16
②体制について.....	18
③事業について.....	19
2. 「茶の文化」(2011 年度)の継続に向けて.....	20

I. 「はなやか関西～文化首都年～」の有効性検証

平成23年度に実施した「はなやか関西～文化首都年～」に関する事業について情報を収集し、関西全体にもたらす経済的効果及び地域への影響等（「茶の文化」の普及啓発、伝統文化の継承、地域資源活用・連携強化（関西ブランドの創造）、情報発信等）について分析することで、その有効性の検証を行った。

1. 実施した業務

(1) 関西各地の「茶の文化」取組参加団体(49 団体)をネットワーク化

取組参加団体が実施する各取組を「はなやか関西～文化首都年～」のプロモーションで紹介するとともに、有志の団体も参画する実行委員会を組成し、意見交換の場とした。

(2) 「茶の文化」を体験する取組

①「茶の文化」総合イベント

はなやか関西茶会記－秀吉と利休の大阪城を舞台として－

第1部 黄金の茶室プレビュー

茶道2流派による「黄金の茶室」を使用しての解説及びデモンストレーションを次の各対象者を招待し、披露することで、報道関係者等への「はなやか関西茶会記－秀吉と利休の大阪城を舞台として－」の事前広報(国内外へ情報発信)とした。

【第1夜】

日時：11月4日(金) 18:00～19:30

流派：武者小路千家

招待者：一般見学者30名程度（実行委員会事務局ホームページにより募集の上、厳正な抽選により当選者を決定）を招待

大阪城天守閣3階「黄金の茶室（原寸大模型）」を使用してのプレビュー

次第

1. はなやか関西～文化首都年～2011「茶の文化」実行委員会
委員長堀井良殷（(財)大阪21世紀協会理事長）挨拶
2. 大阪城天守閣から「黄金の茶室」の歴史的背景等を説明
大阪城天守閣研究主幹北川央氏
3. 武者小路千家による解説及び「黄金の茶室」を使用してのデモンストレーション
招待者は、茶室の外で椅子にかけて拝見。
4. 招待者及び報道関係者による質問等
5. 武者小路千家による呈茶

【第2夜】

日時：11月9日(水) 18:00～19:30

流派：裏千家

招待者：関西の領事等在関西の領事館（19）及び外国経済団体（20 団体程度）あて招待状を「関西領事館フォーラム」名で、近畿経済産業局通商部国際課から、関西領事館フォーラムの参加機関である上記機関へ送付した。

加えて、特命全権大使（関西担当）へ招待状を送付した。

大阪城天守閣3階「黄金の茶室（原寸大模型）」を使用してのプレビュー

次第

1. はなやか関西～文化首都年～2011「茶の文化」実行委員会
委員長堀井良殷（(財)大阪21世紀協会理事長）挨拶
2. 大阪城天守閣から「黄金の茶室」の歴史的背景等を説明
大阪城天守閣研究主幹北川央氏
3. 裏千家による解説及び「黄金の茶室」を使用してのデモンストレーション
招待者は、茶室の外で椅子にかけて拝見
4. 招待者及び報道関係者による質問等
5. 裏千家による呈茶

第2部「茶の文化」フォーラム

【事業の概要】

『はなやか関西～文化首都年～』初年度にあたり、「関西の『本物』:茶の文化」や「『本物』を活かした関西の地域づくり」について、各界有識者にご議論いただき、広く人々に知っていただくことで、「文化首都圏・関西」の形成に向け「茶の文化」に関連する地域づくり活動の活発化や取組間の連携を力強く推進させることを目的に実施した。

【開催時期】

平成23年11月18日(金)

13時30分～16時15分（事前打合せは12時00分～）

【会場】

大阪歴史博物館 4階 講堂

【参加者】

71名(市民、地域づくり関係者、文化関係者、行政 等)

【タイトル】

はなやか関西～文化首都年～2011『茶の文化』フォーラム ―茶の文化と文化首都圏・
関西の形成―

【御登壇者】

お名前・ご所属	プロフィール
<p>谷 晃 氏 基調講演 茶の湯文化学会会長</p>	<p>1944 年愛知県生まれ。京都大学史学科卒業。芸術学博士。香雪美術館を経て、現在、野村美術館理事・学芸部長、茶の湯文化学会会長。専攻は茶の湯文化史。著書に『茶会記の風景』、『茶会記の研究』、『茶人たちの日本文化史』など。</p>
<p>橋爪 紳也 氏 コーディネーター 大阪府立大学特別教授</p>	<p>1960 年大阪市生まれ。京都大学大学院工学研究科修士課程修了、大阪大学大学院工学研究科博士課程修了。京都精華大学人文学部助教授、大阪市立大学大学院文学研究科教授を経て、現職。工学博士。ほかに大阪府立大学観光産業戦略研究所長、大阪府特別顧問政策アドバイザーなど公職を兼務。専門は建築史・都市文化論。「水都大阪 2009」プロデューサーの業績で大阪活カグランプリ特別賞を受賞。主な著書に『集客都市』、『モダン都市の誕生』、『創造するアジア都市』など多数。</p>
<p>角山 榮 氏 パネリスト 和歌山大学名誉教授</p>	<p>1921 年大阪市生まれ。京都帝国大学経済学部卒業。和歌山大学経済学部教授、同大学長、奈良産業大学教授、堺市博物館館長を歴任。経済学博士。現在、堺市教育委員会顧問を兼務。主な著書に『茶の世界史』、『堺・海の都市文明』、『茶ともてなしの文化』など多数。</p>
<p>千田 稔 氏 パネリスト 奈良県立図書情報館館長</p>	<p>1942 年奈良県生まれ。京都大学大学院文学研究科地理学専攻博士課程を経て、追手門学院大学助教授、奈良女子大学教授、国際日本文化研究センター教授を歴任。文学博士。専門は歴史文化論。1994 年『古代日本の歴史地理学的研究』など歴史地理学の一連の業績で第7回浜田青陵賞受賞。2005 年日本地理学会優秀賞受賞。2007 年奈良新聞文化賞受賞。</p>
<p>佐藤 友美子氏 パネリスト 公益財団法人サントリー文化財団 上席研究フェロー</p>	<p>1951 年生まれ。1975 年立命館大学文学部を卒業、同年サントリー株式会社に入社。1998 年 3 月サントリー不易流行研究所部長を経て 2008 年より現職。 近共著に「つながりのコミュニティ 人と地域が『生きる』かたち」(岩波書店)がある。 現在、国土交通省交通政策審議会委員、環境省中央環境審議会委員、文化庁世界文化遺産特別委員会委員等。</p>
<p>寺本 益英 氏 パネリスト 関西学院大学教授</p>	<p>1967 年三重県生まれ。1995 年関西学院大学大学院経済学研究科博士課程を経て 2000 年関西学院大学経済学部助教授、2007 年より現職。主な研究テーマは、明治維新以降の経済発展、日本の茶業史、産業史・企業史・企業家史、地域経済史、比較経済史、食料・農業問題、喫茶の文化史等。『緑茶の事典』、『緑茶消費の現状と今後の展望』など日本の茶業史に関する論文を多数執筆。</p>

【スケジュール及びプログラム】

プログラム	時間	内 容
開会挨拶	13:30～13:35	堀井 良殷 氏 (はなやか関西～文化首都年～2011「茶の文化」実行委員長・(財)大阪21世紀協会理事長)
基調講演	13:35～14:20	「関西と茶の文化」 谷 晃 氏 (茶の湯文化学会会長・野村美術館学芸部長)
— 休憩 —	14:20～14:30	
パネルディスカッション	14:30～14:45	■趣旨説明 橋爪 紳也 氏 (大阪府立大学特別教授)
	14:45～16:00	■パネルディスカッション 【コーディネーター】 橋爪 紳也 氏 (大阪府立大学特別教授) 【パネリスト】 角山 榮 氏 (和歌山大学名誉教授) 千田 稔 氏 (奈良県立図書情報館館長) 佐藤 友美子氏 (公益財団法人サントリー文化財団 上席研究フェロー) 寺本 益英 氏 (関西学院大学教授)
	16:00～16:10	■質疑応答
閉会挨拶	16:10～16:15	はなやか関西～文化首都年～2011「茶の文化」取組参加団体 学生代表 京都嵯峨芸術大学 芸術学部 観光デザイン学科



第3部 はなやか関西茶会記

茶道流派や製茶会社、茶葉産地等の参画を得ながら、本事業のシンボル事業として、千利休等、茶の歴史に大きく関わる大阪城を舞台とした総合イベントを実施し、日本・関西の茶の文化を日本人・外国人に幅広く伝えることを目的とした。

「関西文化の日」(関西一円の文化施設を11月の第3土日など11月の一定期間の入場料を無料で利用いただく日を設定)の「西の丸庭園」無料開放日にあわせて実施した。

【日時】 平成23年11月19日(土)～20日(日)10時00分～16時00分

【場所】 大阪城(西の丸庭園・大阪迎賓館・豊松庵)、豊國神社

【プログラム】

・ 関西大茶会/茶会

茶道の流派による茶会 ※要事前申込(本紙下部参照)

- 11月19日(土) ・ 茶道速水流(大阪迎賓館 map②)
 ・ 小川流煎茶(茶室豊松庵 map③)
 ・ 西大寺大茶盛式(豊國神社 map④)
- 11月20日(日) ・ 裏千家(大阪迎賓館 map②)
 ・ 一茶菴(豊國神社 map④)
 ・ 小笠原流煎茶道(茶室豊松庵 map③)



・ 関西大茶会/野点席

抹茶・煎茶の野点(菓子付き)

(大阪城・西の丸庭園 map①)

- 11月19日(土) ・ 帝塚山学院大学裏千家流茶道部
 11月20日(日) ・ 大阪府高等学校芸術文化連盟茶道部門
 (府立阿倍野高校・府立大手前高校・大阪桐蔭高校・追手門学院大手前高校)
 ・ (財)小笠原流煎茶道関西総支部

・ 茶マルシェ(茶の伝統文化継承)

茶葉、茶道具、菓子、茶を使った食の販売
お茶ツアーの紹介

- 11月19日(土)・11月20日(日)
 (大阪城・西の丸庭園 map①)
- ・ NPO法人シ7自然大学校菊炭クラブ
 - ・ 奈良県高山茶釜生産協同組合
 - ・ 食ゆき奈良
 - ・ (株)福寿園
 - ・ 甲賀市
 - ・ 和束町雇用促進協議会
 - ・ 喫茶のかたち研究会・(株)アクト
 - ・ (株)富久屋



・ 「茶の文化」展

イベント参加団体、学生による「茶の文化」
をテーマとした発表及び展示

11月19日(土)・11月20日(日)
 (大阪城・西の丸庭園 map①)

- ・ 奈良県立奈良朱雀高校
- ・ 京都嵯峨芸術大学
- ・ 大阪市立大学
- ・ 立命館大学
- ・ 和歌山大学
- ・ 大阪観光大学



【西の丸庭園入場者数・アンケート回答者数】

日程	天候	入場者数
平成23年11月19日(土)	暴風雨のち曇り	749名
平成23年11月20日(日)	晴れのち曇り	5,538名
計		6,287名

○はなやか関西～文化首都年～2011「茶の文化」関西の学生アイデア募集！

文化首都圏として重要な「関西の本物の文化である『茶の文化』を新しい世代に受け継ぐ」ためには、取組の対象を若年層にも広げる必要がある。

このため、『茶の文化』をテーマとする観光振興」という主題のもと、関西各地の観光系の研究に取り組む学生等に、実践につながるアイデアを提案していただき、「文化首都圏・関西」づくりに新鮮な意見を取り込む。

②非公開茶室の見学

【解説案内者】

◎中村昌生氏（京都工芸繊維大学名誉教授、財団法人京都伝統建築技術協会理事長、茶の湯文化学会参与）

1927年 愛知県生まれ。現在、京都工芸繊維大学名誉教授、福井工業大学名誉教授。多年にわたり日本建築の伝統追究のため茶室・数寄屋の研究に専念。この間日本建築学会賞、日本芸術院賞など受賞。伝統建築技術の継承発展のため、同志と財団法人京都伝統建築技術協会を設立し、現在理事長をつとめる。多数の著書の中で『図説茶室の歴史 基礎がわかるQ&A』、『数寄屋と五十年』（淡交社刊）などが入手しやすい。作品集に『数寄の空間』（淡交社刊）等。

◎岩崎正彌氏（実行委員会アドバイザー、皇學館大学現代日本社会学部伝統継承文化創造コース准教授、茶の湯文化学会理事）

【コース】

●大徳寺コース

平成23年6月6日（月）

参加者 33名

●東山コース

平成23年10月5日（水）

参加者 29名

●山崎コース

平成24年2月24日（金）

参加者 30名



③「茶の文化」観光 PR キャンペーン

当初、近畿運輸局等のビジット・ジャパン地方連携事業として実施予定であったが、東日本大震災の風評被害への対策に事業費をあてたため、観光シーズンに、多くの人が行き交う施設等での「茶の文化」観光PRキャンペーンの実施は中止となった。

④「茶の文化」タイアッププログラム

○関西経済連合会/都市創造・観光委員会 講演会

2011年7月12日に関西経済連合の「都市創造・観光委員会 講演会」にて、茶の文化に関連する講演が行われた。

**公益社団法人関西経済連合会
都市創造・観光委員会 講演会(概要)**

1. 主催 公益社団法人関西経済連合会
2. 開催日時 2011年7月12日(火) 14:00~16:30
3. 場所 中之島センタービル29階(関経連会議室)
4. 参加者 約40名(関経連会員企業の方)
5. プログラム
 - (1)開会
 - (2)主催者挨拶
 - (3)ご講演
 - ①第1部 「関西で育まれた喫茶文化」～『はなやか関西』からのご提案～
関西学院大学 経済学部 教授 寺本 益英氏
 - ②第2部 「喫茶の楽しみ方(体験プログラム)」
茶文化研究者(「薫東庵」主宰) 湯浅 薫氏
 - (4)閉会

6. 講演の様子

①



①寺本先生(ご講演風景)
②湯浅先生(ご講演風景)
③水出し茶(体験風景)

②



③



(以上)

○関西経済連合会/都市創造・観光委員会 歴史街道視察会

2011年11月17日に関西経済連合の「都市創造・観光委員会 歴史街道視察会」にて、茶の文化の体験ツアー・プログラムが行われた。

**公益社団法人 関西経済連合会
都市創造・観光委員会 歴史街道視察会(概要)**

1. 主催 公益社団法人関西経済連合会
2. 開催日時 2011年11月17日(木) 12:50~17:00
3. 場所 京都府宇治市周辺
4. 参加者 約30名(関経連会員企業の方)
5. 視察行程および様子
 - (1)京阪宇治駅～宇治市観光センター～平等院・鳳翔館



ボランティアガイドによる解説(宇治橋)



世界遺産・平等院

(2)平等院～福寿園宇治工房～宇治・宇治上神社



善願寺と十三重石塔



抹茶教室(福寿園宇治工房)



焼き立て抹茶の試飲



世界遺産・宇治上神社

(以上)

○関西領事館フォーラム 第11回関西ツアー

2012年2月15日の「関西領事館フォーラム 第11回関西ツアー」において、はなやか関西に関する取組を領事館関係者に紹介した。

行き先：

1. 堺市役所 21階展望ロビー
2. 自転車博物館
3. 堺市茶室・仁徳天皇陵古墳
4. 水野鍛錬所・堺鉄砲館

スケジュール：

12:10	集合	大阪合同庁舎第一号館 (大阪市中央区大手前 1-5-44)
	↓	
12:20	出発	バス
12:50~	堺市役所 21階展望ロビー (堺市堺区南瓦町 3-1)	
13:20	↓	バス
13:35~	自転車博物館 (堺市堺区大仙中町 18-2)	
14:55	↓	徒歩
15:05~	堺市茶室 (堺市堺区百舌鳥夕雲町 2丁)	
16:05	↓	仁徳天皇陵古墳 (堺市堺区大仙町)
	↓	バス
16:25~	水野鍛錬所 (堺市堺区桜之町西 1丁 1-27)	
17:10	↓	堺鉄砲館 (堺市堺区北籠町西 1-2-7)
	↓	バス
17:40	解散	大阪合同庁舎第一号館 (大阪市中央区大手前 1-5-44)

世界を魅了する文化遺産をのびせ
はなやか関西～文化首都年～

日本文化の源泉 関西

世界に誇る文化遺産の蓄積を持つ関西

伝統と革新が融合する関西

○国土交通省近畿運輸局/お茶の文化の情報発信～ビジット・ジャパン地方連携事業～2事業の中で抹茶体験等を企画実施

中国等からの教育旅行誘致事業 [シンガポールファムトリップ]

実施時期：平成23年9月5日(月)～10日(土) 5泊6日
 招請人数：6名
 主な行程：大阪市、堺市、京都市、奈良市、神戸市等

- シンガポールから関西への教育旅行を誘致するため、教育旅行実施のキーパーソンである教育関係者を対象にファムトリップを実施。
- 奈良市内の慈光院にて抹茶体験を実施し、お茶のたて方や作法等、日本のお茶の文化を説明し実践。



中国のTV会社を招請した観光客誘致PR取材事業

実施時期：平成23年11月29日(火)～12月4日(日) 5泊6日
 招請人数：9名
 主な行程：大阪市、京都市、奈良市、神戸市等

- 関西の保有する歴史・文化遺産及び温泉や食材などを織り込んだ観光情報を中国にてTV放映し、関西の多彩な魅力を紹介するため、北京、上海のテレビ局を対象にファムトリップを実施。
- 京都市内の高台寺にてお茶体験を実施し、お茶のたて方や作法等、日本のお茶の文化を説明及び取材。



⑤「茶の文化」スタンプラリー

【目的】

関西各地の「茶の文化」ゆかりの地を巡り、関西の本物の資源の素晴らしさを体験していただくことで、関西のブランド力の向上を目指すとともに、取組に参加する各地の観光振興を図ることを目的に、「茶の文化」スタンプラリーを開催した。

※各ラリーポイント会場のうち3カ所でスタンプを押印。3カ所目のラリーポイントで3つ目のスタンプを押印して、スタンプ台紙を各会場の係の人に提出。

【実施期間（応募期間）】

平成23年6月1日（水）～平成24年1月31日（火）（当日提出分まで有効）
ただし、イベント開催期間中のみスタンプラリーを開催している会場もある

【賞品】

下記の賞品のいずれかを抽選のうえ、贈呈。

有馬温泉日帰り昼食付き入浴券・・・1組様（（社）有馬温泉観光協会提供）

「和東茶の佃煮（100g入り）」・・・10名様（和東町雇用促進協議会提供）

「宇治の朝 手もみ玉露 30g 缶入」・・・1名様（（株）福寿園提供）

「富小路煎茶 ティーバッグ10 袋入」・・・3名様（（株）福寿園提供）

西大寺大茶盛記念手ぬぐい・・・20名様（西大寺提供）

西大寺大茶盛記念絵はがき・・・20名様（西大寺提供）

丹波篠山茶ペットボトル・・・24名様（丹波ささやま農業協同組合提供）

【結果】

18名の募集があった。

「茶の文化」スタンプラリー スタンプポイント

- 家元等による茶道教室
 - ⑫小笠原流煎茶道家元による煎茶会、教室体験会等<芦屋、西宮北口、梅田、心齋橋、上本町、御影、新在家>
- 茶にまつわる工芸・文化財公開等
 - ②信楽焼伝統工芸士秋季展「茶のうつわ展」<滋賀県甲賀市信楽伝統産業会館>
 - ③大池寺「蓮葉庭園」(小堀遠州作の枯山水庭園観賞、抹茶ふるまい)<滋賀県甲賀市水口町>
 - ⑪大阪日本民芸館(実生活に密着する新古の民芸品などを展示)<吹田市万博公園内>
- 茶にまつわる観光施設
 - ④甲賀忍術秘伝の飲料「健保茶」(甲賀流忍術屋敷での試飲・販売)<滋賀県甲賀市甲南町>
 - ⑦憧れの京物ー宇治茶のティーライフをお楽しみくださいー(福寿園各施設での接客)<福寿園京都本店ほか>
 - ⑧京都宇治 和東茶フェア(和東茶とリーガロイヤルホテルとのコラボレーション)<京都、堺、東京のリーガロイヤルホテル>(和東茶カフェ)<京都府相楽郡和東町>
- 市民参加・体験等
 - ⑥五先賢の館(遠州流茶道教室、浅井三姉妹企画展)<滋賀県長浜市北野町>
 - ⑮西大寺大茶盛(秋・新春に大茶碗でお茶の振る舞い)<奈良市西大寺芝町>
- 茶会・まつり等
 - ①朝宮茶感謝祭、朝宮茶まつり(朝宮茶業の先人への感謝と発展を祈願、朝宮茶のPR等)<滋賀県甲賀市信楽町>
 - ⑤戦国の茶会(虎御前山の遺構から出土した茶臼等からその時代に思いを馳せ、茶会を開催。等)<滋賀県長浜市>
 - ⑨第38回「堺まつり」利休のふるさと堺大茶会(三千家が一同に会する茶会、野点席煎茶席、和菓子販売、演奏、生け花体験等)<南宗寺山内・大仙公園>
 - ⑩「茶の文化」総合イベント(関西の多彩な茶の文化が一堂に会するイベント)<大阪城内>
 - ⑬有馬大茶会・瑞宝寺公園もみじ茶会(スタンプラリーの対象は「瑞宝寺公園もみじ茶会」。「有馬大茶会」は表裏両千家が各年交替で開催し、スタンプラリー対象外。)<兵庫県神戸市北区の有馬温泉内>
 - ⑭「大國寺と丹波茶まつり」(茶壺道中、お茶席、茶摘体験、大國寺公開等)<兵庫県篠山市>

(3) 「茶の文化」のPR

①「はなやか関西～文化首都年～2011」公式ガイドブック



②関西はなやか美術館-関西で「本物」の茶道具を所蔵する美術館-



③「はなやか関西～文化首都年～」ホームページ

近畿圏広域地方計画
知と文化を誇り力強く躍動する関西

検索 検索方法

ホーム > 近畿圏広域地方計画 > 計画推進info > はなやか関西～文化首都年～

計画推進info

はなやか関西 ～文化首都年～

「はなやか関西～文化首都年～」は、近畿圏広域地方計画の主要プロジェクト「文化首都圏プロジェクト」を推進する取組です。

関西の特徴である文化の集積を活かし、関西各地の地域資源を特定のテーマによって広域的に連携させ、関西が一丸となって支援や情報発信を行うことを通じて、関西を文化首都圏として発展させることを目指します。

[>> 詳しくはこちら](#)

文化首都圏プロジェクト推進情報

2012/02/23 多言語対応のパンフレットを作成しました **NEW**
[「はなやか関西」文化首都年チラシ](#) (English) (中文简体字) (中文繁體字) (한국어)

2012/02/23 「茶の文化」スタンプラリー賞品の抽選をおこないました **NEW**

2012/02/13 [はなやか関西～文化首都年～2011「茶の文化」フォーラム講演録をUPしました!](#) **NEW**

2012/02/01 「非公開茶室の見学(東山コース)」を開催しました **NEW**

2012/01/31 平成24年度テーマ「人形浄瑠璃」の取組団体を募集します **NEW**

2012/01/27 「非公開茶室の見学(山崎コース)」の参加者を募集します

2012/01/17 [「はなやか関西～文化首都年～2012」テーマが決定](#) **NEW**
 - 24年度テーマは「人形浄瑠璃」 -

2012/01/17 平成23年度第1回「関西のブランド力向上推進有識者委員会」を開催しました

2012/01/17 [はなやか関西茶会記がおおさか動画チャンネルに紹介されました](#)

2011/12/01 タイアッププログラム・「茶の文化」に関する視察会を開催しました
 公益社団法人 関西経済連合会

2011/07/27 タイアッププログラム・「茶の文化」に関する講演会を実施しました
 公益社団法人 関西経済連合会

④DVD「はなやか関西茶会記一秀吉と利休の大阪城を舞台として」(制作:2011「茶の文化」実行委員会)



⑤DVD「茶の文化」(制作:(財)大阪 21 世紀協会)

<DVD コンテンツ>

- # 茶の歴史・今に息づく茶のこころ
- # 宇治茶・全国にとどろく高級ブランド
- # おもてなしの心

2. 効果と課題

モデル実施に関して、以下の視点から成果と課題の検証を行う。



(1) 単年度の効果と課題

■ モデル実施として、各プログラムともに一定の成果を残せた

「はなやか関西～2011～「茶の文化」」の主要プログラムの参加者数は、「非公開茶室の見学」が延べ92名(3回計)、「茶の文化」フォーラムが71名、「はなやか関西茶会記」が6,287名(2日間計)であった。

少ない事業予算のなか、モデル実施として、各プログラムともに一定の成果を残すことができたと考える。

	参加者数
●非公開茶室の見学	延べ92名(3回計)
●「茶の文化」フォーラム	71名
●はなやか関西茶会記	6,287名(2日間計)

(2)継続的な効果と課題

①来訪者への効果と課題

■来訪者に「関西の文化」を知ってもらうきっかけとなった

「非公開茶室の見学」（3回開催）については、毎回、定員を大幅に上回る応募があった。中村先生による解説付きの見学は非常に好評であった。普段、見学できない茶室が見学できるとあって、茶の文化のコアなファンの参加が目立った。

「はなやか関西茶会記」（大阪城の総合イベント 第3部）については、初日は天候に恵まれなかったが、2日目は秋らしい晴天で多くの来場者があった（1日目・2日目、合計約6千名）。一般客でも気軽に参加できる茶道の流派による「茶会・野点席」は人気であり、普段、本物の茶の文化に触れる機会が少ない方々にとって、茶の文化を知ってもらう良い機会となった。また、ブースで、各地域の茶に関する様々な品（茶葉、茶菓子、茶道具、菊炭等）を販売する「茶マルシェ」では、商品が販売者の「こだわり」の説明つきで販売され、来場者の関心をえた。大学生が茶の文化に関する企画・展示を行った「茶の文化展」では、茶の文化をテーマとした観光ルートや、茶の効能に関する研究など、幅広い視点から茶の文化を捉えた展示が非常に好評であった。「はなやか関西茶会記」は、特に「茶の文化」のすそ野を一般客に広げることにも成果があった取組であったと言える。

その他、「茶の文化」フォーラム、「公式ガイドブック」「ホームページ」、「スタンプラリー」の取組については、関西の茶の文化に対する関心の向上に寄与する取組となった。

②参加地域の効果と課題

●ひとづくり

■地域のネットワーク形成に大きな成果。継承・継続が大きな課題

本事業の成果として、多くの取組参加団体から「地域のネットワークが形成された」との評価があった。また最終となる第5回実行委員会では、引き続きネットワークを継承するよう希望が出された（詳細は後述）。

参加地域のネットワーク化に一定の成果があったと考えられる。今後は、より参加地域のネットワークを強固にするよう、実行委員会の運営等に工夫が求められる。

●まちづくり

■地域の認知度向上に成果。空間づくり等の側面での効果は限定的

本事業において、「地域の認知度の向上」の面では一定の成果を残すことができた。取組参加団体からも、本事業が認知度向上に結びついたとの回答を多くいただいた。「はなやか関西茶会記」、「非公開茶室の見学」、「スタンプラリー」、「公式ガイドブック」、「パネル展示」、「関西はなやか美術館（冊子）」など、本事業で行った全ての事業の総合的な効果と言える。

また、本事業をきっかけとした新たな空間利用に関しては、「非公開茶室の公開」や「はなやか関西茶会記における大阪城・西の丸庭園の活用」などが挙げられる。非公開茶室に関しては、これまで公開されていない茶室が公開された。大阪城・西の丸庭園については、会場を提供いただいた大阪市より「利活用が限定的な大阪城・西の丸庭園」のポテンシャルが認知された」と回答があったように、新たな利活用の可能性が得られた。こうした利活用の可能性を、本事業限りのものとせず、継続的なものとしていくための取組が今後、必要とされる。なお、関西全体の視点からみると、今

回、まちづくりの面で進んだ取組は非常に限定的であると言える。準備会構成機関の協力をえながら、本事業をきっかけとした、まちづくりに取組む方策を検討していく必要がある。

●ものづくり

■参加者の一部でものづくりに関する取組があったが、関西全体で見ると限定的

ものづくりの面で効果が大きかったのは、「はなやか関西茶会記」と言える。関西の茶の文化に関する様々な商品が大阪城に集結され、来場者に対する販売を行った。売り切れとなる出展者も多くみられるほど、盛況であった。

風習として薄れつつある「茶がゆ」づくり（大学生）や「はなやか関西」ロゴマークをイメージした創作「茶菓子」の開発（富久屋）なども行われた。

ただし、空間と同様、関西全体の視点から見ると、本事業をきっかけとして進んだものづくりは非常に限定的であったと言える。空間と同様に、準備会構成機関の協力をえながら、本事業をきっかけとした、ものづくりに取組む方策を検討していく必要がある。

③準備会メンバー等への効果と課題

準備会構成機関のアンケートにおいては、はなやか関西～文化首都年～2011「茶の文化」の効果について、「他地域の資源・取組に対する認識が深まる」「他地域とのネットワークが形成される」との回答が多く見られた。アンケートの自由回答においても、「連携して取組を実施できたことは、関西の魅力をPRする上で非常に意味がある」「これだけたくさんの各府県が参加したことは大きな成果」との回答があった。

また今回、形成されたネットワークについて、継承を希望する声もみられた。

(3)成果と課題の総括

■ 関西が文化首都圏を確立することは「意義がある」との意見が大半

「はなやか関西茶会記」（大阪城の来場者）の来場者、「非公開茶室の見学」の参加者、取組参加団体、準備会構成機関のアンケートの全てにおいて、関西が文化首都圏を確立することに意義があるとの回答を得た。また、文化首都年事業は関西の文化首都圏を確立していく上での手段として、有効との回答も多くあった。

このような声を踏まえ、はなやか関西～文化首都年～は引き続き、取組を継続していくことが望まれる。

■ はなやか関西の関西全体への取組の広がりの中で課題

大阪城でのイベント、非公開茶室の見学など、各プログラムに参加してもらった人々には概ね良い評価を得た。しかし、関西全体の視点から見ると、これらの取組はかなり限定的であると言える。はなやか関西の取組に賛同する方々を増やし、取組を拡大していく必要がある。

そのためには、現在の実行委員会事務局（近畿圏広域地方計画推進室）が中心となった事業展開では限界があり、各地域の積極的な参加が必要となる。そのためには、本事業への準備会構成機関及び各地域の主体的な関与が不可欠と考えられる。

■ 継続性のある体制構築～人材と資金

「はなやか関西～文化首都年～2011 茶の文化」では、実行委員会事務局（近畿圏広域地方計画推進室）が、アドバイザーや有識者委員会委員、準備会構成機関等の協力を得ながらも、実質的に事業の企画・調整・実施に深く関与してきた。また本年度実施した事業の費用に関しては、文化庁の補助金の活用や準備会構成機関の支援があったものの、その多くは実行委員会事務局が負担した。

関西が文化首都圏を確立していく上で、今回の事業費が十分とは言い難かった上、今後も同様に近畿地方整備局が事業費を負担し続けるのは困難と想定される。

今後、オール関西による自立した取り組みとして推進されることが望ましいが、現段階ではそこまで機運が高まっているとは言い難い。また準備会構成機関も、トップ等の指示がなければ主体的に動くことは難しいと考えられる。

持続可能な運営形態について、引き続き検討が必要である。

II. 自立的政策モデルの提示

平成23年度におけるモデル実施を踏まえ、長期的な自立・発展の方策の先進的取組事例について、テーマ及び手法等を検討する。

また、近畿圏の活性化を図るために、近畿圏広域地方計画の趣旨を活かして多様な主体との連動性を向上させるため、新たに必要となる広域的な連携支援のあり方を調査・検討し、自立的な政策モデルを提示するものとする。

1. 次年度以降の展開方策について

(1) 基本的な考え方

■ できることを着実に積み上げ実績を残す

今後、「はなやか関西」のムーブメントを拡大していくためには、一定の予算と体制が必要となる。「はなやか関西」の最終的な体制としては、準備会構成機関等が中心となり推進していくことが望ましいが、現段階では各団体のトップの合意がないなか、困難と考えられる。

当面は、準備会構成機関、有識者委員会委員、アドバイザー、取組参加団体がそれぞれ可能な限り資源を持ち出し、実績を着実に積み上げ、「はなやか関西」の輪を広げていくことが重要である。

また、望ましい推進体制の構築に向けて、様々な形態を試行・検証していくものとする。

(2) 平成24年度の「はなやか関西」の実施に向けて

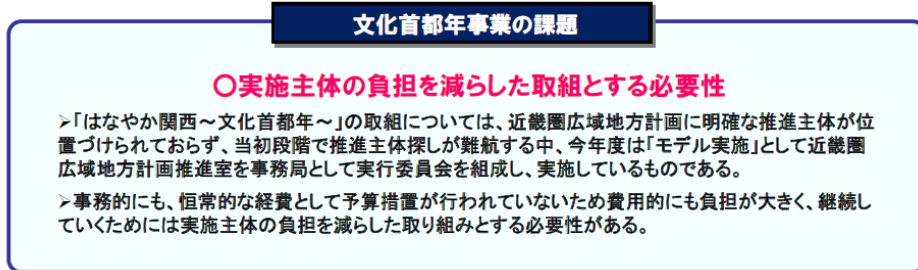
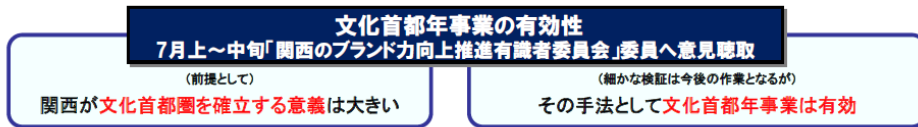
① テーマについて

■ 実行委員会の実施主体の公募制の採用

平成23年度の「茶の文化」は、準備会構成機関・事務局等から「テーマ」を提案し、有識者委員会を選定した。その後、「テーマ」にあった取組団体を募集・選定し、取組団体の有志により実行委員会を組成した。初年度の取組であったため、取組参加団体に実行委員会の委員長を担ってもらうことは負担が大きいと考え、有識者委員会の委員である堀井 良殷氏（(財)大阪21世紀協会 理事長）に依頼した。

平成24年度は、平成23年度の成果・反省を踏まえ、「自立した取組の推進」、「事務局の負担軽減」の2つの観点から、「テーマ」及び「コア事業の実施主体」をあわせて募集する形態をとることとする。

平成23年度「はなやか関西～文化首都年～2011『茶の文化』」
モデル実施



次年度以降の方向性

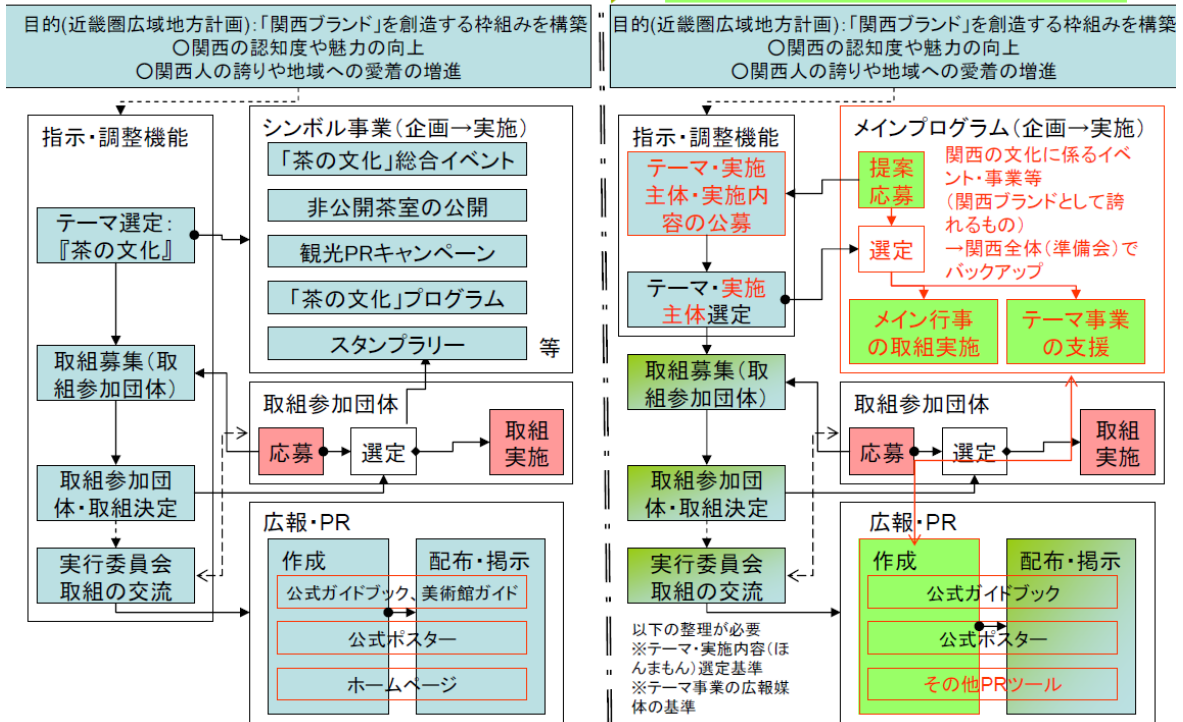
実行委員会をコア事業の実施主体が主導する運営体制へ

平成24年度以降の「はなやか関西～文化首都年～」の実施に向けた体制(案)

(水色着色が準備会及び事務局たる近畿圏広域地方計画推進室としての「関西のブランド力向上推進」の役割)

H23: テーマ『茶の文化』(実行委員会を組成)

H24以降: メインの実施主体が主導



②体制について

■ アドバイザー制度の継続

平成23年度の「茶の文化」では、以下の2名にアドバイザーをお願いした。

- 寺本 益英氏（関西学院大学 経済学部 教授）
- 岩崎 正彌氏（皇學館大学 現代日本社会学部 伝統継承文化創造コース 准教授・茶の湯文化学会 理事）

アドバイザーには主に以下の役割を担ってもらった。

- 「茶の文化」で実施する各事業に関する助言
- 各事業を実施する上でのキーパーソンの紹介（千家等）
- 実行委員会（第5回、最終回の意見交換会）におけるファシリテーター

2名の方々には、「はなやか関西」の理念に賛同いただき、ご協力いただいた。両名の協力がなければ、開催できなかった事業は多い。

「はなやか関西」を通じて文化首都圏を確立していく上では、関西の本物の文化をリードする方々の協力は不可欠である。これはいずれのテーマにおいても同様であり、次年度以降も、引き続きアドバイザーを配置することが望ましいと考えられる。

■ 各地域の取組団体への積極的アプローチ

はなやか関西の知名度は高いとは言えないことから、取組参加団体の募集にあたっては、事務局等から積極的に参加打診を行っていく必要がある。

■ 準備会構成機関の参加促進

今年度の文化首都年「茶の文化」の実施においては、準備会構成機関がプロモーション等の面で協力を行った。今後、関西が文化首都圏を強く推進していくためには、準備会構成機関の積極的な関与が不可欠と言える。

現在、実行委員会に参画している各主体の担当は、近畿圏広域地方計画の策定に関与していた部局である。そのため文化・観光推進の側面が強い現在の文化首都年の取組と、それほど直接的な関わりが大きい部局も多いと考えられる。

文化首都年の取組参加団体への積極的な支援を行うためにも、実行委員会の会議等については、直接的な関与が大きい文化・観光の部局の参加を促すなどの工夫が必要と考えられる。（プロモーションでの協力・連携は是非お願いしたいところ）

■ 学生の参加促進

今年度のモデル実施においては、大学や高校等の学生の参加により、実行委員会や各種イベントに非常に活気がでたと言える。今後も学生の参加を促進することが望まれる。

■ 民間の参加促進

はなやか関西の取組を自立させていくためには、民間の協力が不可欠である。文化首都年を一つのコンテンツとした観光商品の開発等の可能性について、旅行代理店や鉄道事業者と協議していくことも必要である。ビジット・ジャパン地方連携事業を始めとする既存の施策・制度を活用することが有効であると考えられる。

③事業について

■ 取組参加団体が主体的に事業提案できる環境づくり

今年度の文化首都年は、実行委員会事務局である近畿圏広域地方計画推進室が主体的に事業をリードしてきたため、取組参加団体の主体性を十分引き出したとは言い難い。会議の運営方策を含めて、取組参加団体が前向きにアイデアを出し、参加団体同士でネットワークが生まれるような環境づくりに努めていく必要がある。

【アイデア（例）】

- 会議へのワークショップの導入
- 取組参加団体の地への訪問ツアーの実施
- メーリングリストの導入

■ 有料プログラムの企画・実行

今年度の「非公開茶室の見学」は、有料プログラムにも関わらず、毎回、定員オーバーになるなど、非常に好評であった。有料プログラムは主催者側の事業費負担が不要となる。今後もうまく有料プログラムを企画・実行していくことが望まれる。

■ 「本物の文化」そのものが抱えている課題へのアプローチ

～文化のすそ野を広げる取組の必要性

今年度の「茶の文化」フォーラムにおいて、パネリストから「茶の文化」は関西が誇るものだが、日本・関西ともに文化を支える市民が減っている。若者等をいかに開拓していくかが大きな課題」との指摘があった。今年度実施した非公開茶室の見学などでも、もともと「茶の文化」に関心の高い層の参加が多かった。

その点、大阪城において開催した「はなやか関西茶会記」は、一般の方々が茶の文化に触れることができる良いきっかけとなったと考えられる。しかし、イベント自体は単発の取組であり、継続的に文化に気軽に関与できるような仕組みが必要と考えられる。

こうした課題は「茶の文化」だけが抱えるものではなく、いずれのテーマにも共通するものである。次年度以降、こうした課題に積極的にアプローチすることを、はなやか関西の「売り」としていくなどのアイデアも考えられる。

【アイデア（例）】

- 「テーマ」に関するコラボ・コンペの実施
(例)「文楽」のすそ野拡大に向けた、(財)文楽協会とのコラボのアイデア募集等

④プロモーション

■ 「facebook」などの情報発信媒体の活用の検討

近年、着目されている「twitter」や「facebook」、「youtstream」等は非常に有効なプロモーション・ツールではあるが、以下の理由等から今年度は実施しなかった。

- 事務局の負担が大きい
- (同様の理由で)取組参加団体での引き受け手がいなかった
- また「はなやか関西」は行政や経済界等が推進する取組であり、取組参加団体等の民間が運営した場合のコンテンツ管理が問題

これらのプロモーション・ツールについては、活用方策について次年度以降も検討が必要である。

2. 「茶の文化」(2011 年度)の継続に向けて

■ 持続可能な形で取組参加団体のネットワークを継承する

平成 23 年度にモデル実施として、「はなやか関西～文化首都年～2011「茶の文化」」を実施した。平成 24 年 3 月をもって本年度の事業（「茶の文化」）は終了する。

はなやか関西の取組は、数年続けて、効果が高まっていくものと考えられることから、「はなやか関西～文化首都年～2011「茶の文化」」の第 5 回実行委員会・意見交換会において、取組参加団体、堀井実行委員会委員長、寺本アドバイザー、岩崎アドバイザーから、引き続き取組参加団体等のネットワークを継承する取組の希望があった。

ただし、組織を立ち上げ継承することは現段階では困難である（事務局を誰が担うのか、費用を誰がどのように負担するのかが不確定）ため、まずは持続可能な形でのネットワーク継承から始め、徐々に強固な体制への移行を試行することとした。

なお、これらのネットワークは基本的に取組参加団体を中心とした自主的なネットワークとの位置づけであるが、実行委員会事務局（近畿圏広域地方計画推進室）としても必要に応じて引き続き支援していくものとする。